

パネルディスカッション4

「治療適応；内科・外科の立場から－炎症性腸疾患 クローン」

司会 安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）

水島 恒和（大阪警察病院消化器外科）

クローン病では抗 TNF- α 抗体の登場により飛躍的に治療成績が向上した。ここ数年は抗 IL-12p40 抗体、抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体が使用可能となり、治療選択肢は増加し、治療目標も変化しつつある。一方、繰り返す炎症の結果、腸管合併症を来し内科治療が困難となる患者さんは未だ少なからず存在する。本パネルディスカッションでは、その様な患者さんに対する手術を含めた治療法の選択基準、またそれぞれの治療法の成績について内科・外科の立場から議論して頂きたい。